

ビヨンドトゥモロー エンデバー2023 応募を迷っているかもしれないあなたへ



小林 朱里（こばやし しゅり）エンデバー2022 年度奨学生（高校 3 年）

里親家庭に育つ。小学 2 年生の時からガールスカウトに参加し、高校生の現在は様々な集会の司会や SDGs についての探究活動、募金活動といったことにも精力的に取り組む、仲間をつくることや知識が増えることに楽しさを感じている。ビヨンドの活動を通して、どんなことにも自ら進んで積極的に取り組む人、そして感謝ができる人になりたいと考えている。将来は看護師・助産師になるために看護学部に進学する予定。

皆さんが家庭や学校以外で自分をありのまま、表現できる場所はどこですか？
私は、ビヨンドトゥモローと回答します。

昨年 12 月、私の家に児童相談所の方がやって来て、ビヨンドトゥモローの要項を渡してくれました。最初は、「受験料ももらえるみたいだし応募してみるか！」くらいの軽い気持ちで応募しました。しかし、自分なりにビヨンドトゥモローの活動を調べていくうちに「絶対この活動に参加したい！受かりたい。」という気持ちが強くなっていきました。合格通知をもらった時は里母と一緒に喜んだのを覚えています。

ビヨンドに参加して初めて、私は自分の過去を振り返り、それを人様に共有をするという体験をしました。初めて参加したときは、「自分の過去なんて聴いてもらっても…」という謙遜の感情がありました。しかし、回を重ねていくごとに「もっとこの人たちに私の事を聴いてもらいたい！」という感情に変化していきました。

なぜ私の感情が変化したのでしょうか？それはビヨンドの学生達が私を受け止めてくれたからです。

ビヨンドに参加する学生達は、それぞれ事情は違うものの、似た境遇の人たちが集まっています。だからこそ、それが「自分の過去をオープンにすることなんて怖くない！」という感情にさせてくれます。

藤井風というアーティストの楽曲の中に「青春病」という曲があります。その曲の歌詞に「止まることなく走り続けて行け 何か僕にいつでも急かすけど どこへ向かって走り続けんだっけ 気づけばまた明ける空」という部分があります。エンデバーに応募しようか迷っている皆さんの中には、自分がどの道へ進みたいか分からない、或いは自分が何者なのか分からない、と感じる方もいると思います。そうであるとしたらビヨンドトゥモローに応募してください！ビヨンドトゥモローはあなたの人生の中に於いて大きな光となり、支えになります。

迷ったらやってみよう！沢山の仲間があなたを待っています。